

メキシコ：コレクティボC733——メキシコにおける公共空間

公共空間を設計する：メキシコの6つの教え

マルコ・ビアージ

参照 | 本誌pp.6-9

西欧の「スマート・シティ」では、重視される変化が私的な利益関心に委ねられ、行政は郊外において「戦術的都市計画」の小規模美容手術を実験し、都市計画家たちは社会学者として地域を「管理し」、そのために推進する参画型実践は意図としては価値あるものの、現地への影響が一時的ではほとんど感じられないことがしばしばである。これに対して、公共空間を構築することは何を意味するのかについて、また建築設計が今なお保持する、環境と人々の生活を改善する潜在的 possibilityについて考察するいくつかのヒントは、意外なことに遠く離れた地のおそらく比類のない状況からもたらされた。

「メキシコでは少なくとも過去30年にわたり、公共事業は、国民的関心を集め、大規模事業の場合、直接委託と非公開の手続きにより実現され、あるいは各地域の、ただし真の設計文化が欠如した、小規模な建設会社の実験に任されて実現してきた」とガブリエラ・カリーリョは指摘している。したがって、中米国家メキシコの連邦政府が農地土地都市開発省(SEDATU)を通じて2019年に着手した「都市改善プログラム」(PMU)は、決定的

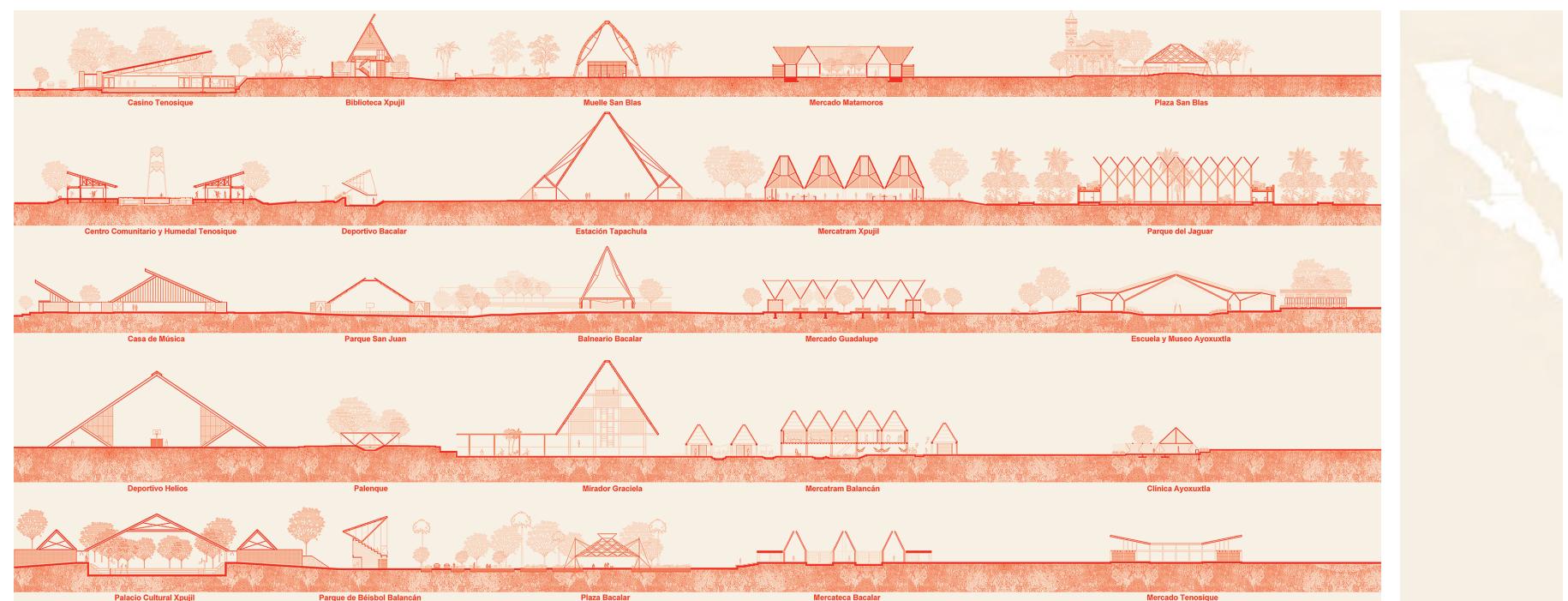
で重要な方針転換をはつきりと示している。これは6年の期間内に実行する野心的なプログラムで、メキシコ全土に散らばる約100ヶ所の中小地方自治体において、都市が破壊され社会的に困窮した危機的状況を健全化するために、莫大な資金を充当する。サービスと住宅供給が事業計画の2大基軸とされ、整備された住宅地の周縁部に、規則も管理も計画もなく時とともに自然発生した居住地を、すべて都市の地位に引き上げることに狙いを定めている。

したがって、プログラムには学校、市場、保健所、スポーツ施設、市民センター、広場、消防士宿舎などが組み込まれた。またさらに、社会的に脆弱な状況にある人々のための住居の拡張、統合、あるいは建て替えも含まれる。最後に、すべての居住用地を正規化し、不動産所有権を証明する。かなり短期間で着手し運営するプロセスは、大学の知的資源を巻き込み、プレファブリケーションと伝統的技術を併用することで、費用の抑制、施工スピード、安全を担保しつつ、非熟練労働者の就業促進を目指している。

以下に掲載する6つの建物は選び抜かれた一断面であるが、計画実施の第1期で完成した数百の事業と、現在進行中で今後数ヶ月以内に完了予定の多くの計画のうち、ごくわずかにすぎない。これら6作品すべてを手

がけたコレクティボC733だけでも、冒頭の断面図チャートに載せたプロジェクトと合わせると、優に30を越える現場が現在進行中である。チャートから明らかなように、小屋型あるいはピラミッド型の屋根の三角形の図式は、工法と造形の母型として反復されている。すべての設計案を「テーマの変奏」として生み出すことを可能にしたのは、モジュール、スケーリング、基本図式の変形の反復を組み合わせる設計手続きを採用したためである。「建築の一族」を目前にしているような印象を受けるのはそのためで、親戚どうしでありながら、それぞれが特定の状況に適応した特異なものなのである。

これらを構想したチームは2019年3月に、メキシコ国立自治大学(UNAM)の建築学部がSEDATUの依頼を受けて、建築家としても活動する40人の教員を対象に、メキシコ北部国境沿いのいくつかの市町村における公共インフラストラクチャー計画を策定する学内設計競技を行った際に結成された。参加者に課せられた過密なスケジュール——応募案提出まで2週間、実施設計に3ヶ月、実現に3ヶ月——ゆえに協働が推奨された。こうして、ホセ・アモスルティアとカルロス・ファシオ(タイエールTO)、ガブリエラ・カリーリョ(タイエール・ガブリエラ・カリーリョ)、イスラエル・エスピニン(タイエール・イスラエル・エスピニン)、そして構造家のエリック・バルデス(LABG)たちは、当時学生だったロセ



無断での本誌の一部、または全体の複写・複製・転載等を禁じます。

©2022 Arnoldo Mondadori Editore

©2022 Architects Studio Japan



空からの全景



中央入口に向かって見る



市場内部



中央棟内部

「カサ・デ・ムジカ」 Nacajuca, Tabasco, Mexico

設計-コレクティボC733

2020-21 | 多機能オーディトリアムと音楽リハーサル室 ⑪

参照 | 本誌pp.22-26

作品:カサ・デ・ムジカ

設計:コレクティボC733—— Gabriela Carrillo, Eric Valdez,

Israel Espín, TO – José Amozurrutia, Carlos Facio

設計チーム:Gabriela Carrillo, Eric Valdez, Israel Espín,

José Amozurrutia, Carlos Facio, Álvaro Martínez,

Fernando Venado, Eduardo Palomino

実施設計:Leticia Sánchez, Victor Arriata

構造:LABG – Eric Valdez, GIEE, GECCO Ingeniería

設備:Enrique Zenón

ランドスケープ:Taller de Paisaje Hugo Sánchez

施工:Francisco Tripp – Grupo Plarciac

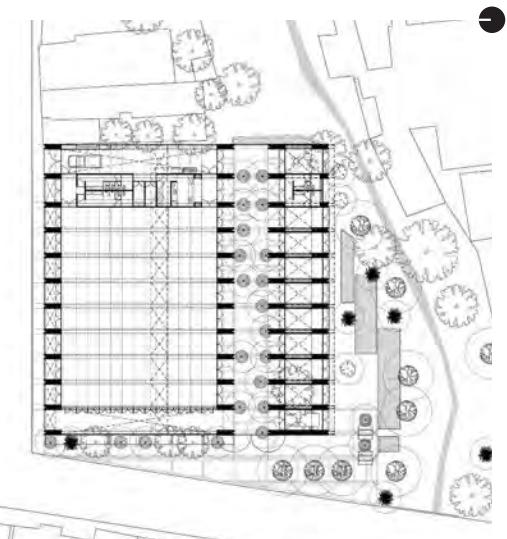
コンサルタント:Carlos Hano, Laurent Herbiet

建築主:SEDATU, Municipio de Nacajuca

規模:敷地面積 3,350 m² / 延床面積 1,325 m²

スケジュール:設計 2020年4月–8月 / 施工 2020年8月–21年5月

所在地:Gregorio Méndez Magaña, Nacajuca, Tabasco, Mexico



平面図



断面図

無断での本誌の一部、または全体の複写・複製・転載等を禁じます。

©2022 Arnoldo Mondadori Editore

©2022 Architects Studio Japan



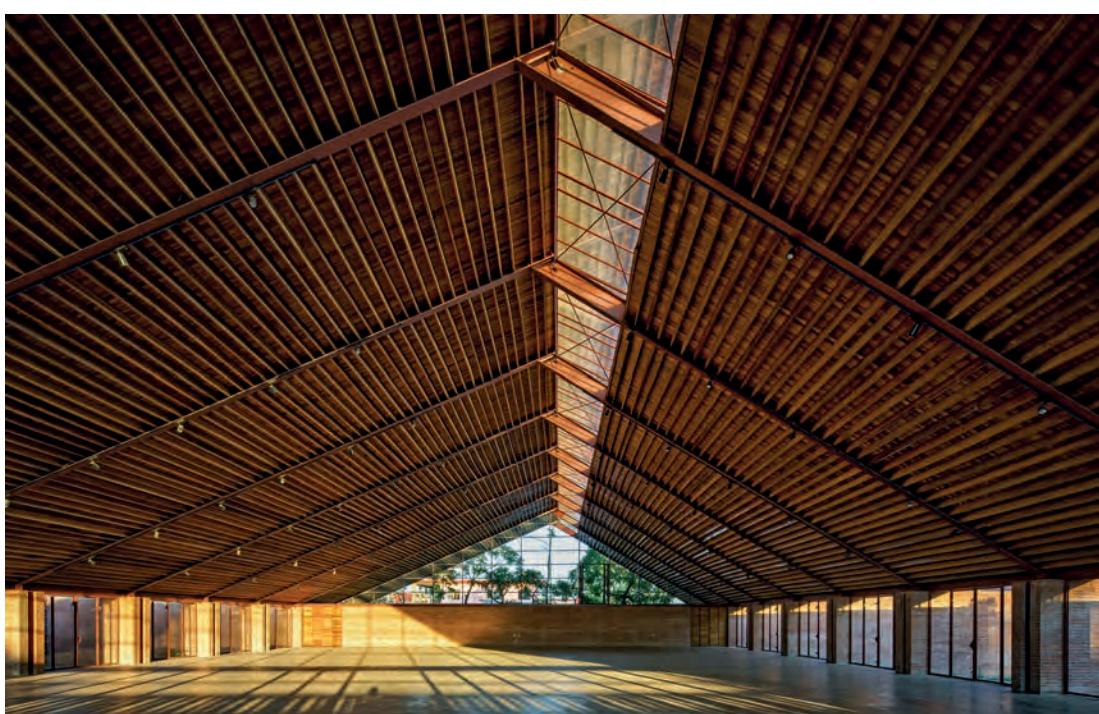
メイン・ファサード



左に多目的ホール、右に音楽室の連続を見る



音楽室内部



多目的ホール

「文化ステーション」 Tapachula, Chiapas, Mexico

設計=コレクティボC733

2020-21 | 鉄道駅跡地の市民文化センター——⑧

参照 | 本誌 pp.27-30

作品:文化ステーション

設計:コレクティボC733——Gabriela Carrillo, Eric Valdez, Israel Espín, TO — José Amozurrutia, Carlos Facio

設計チーム:Gabriela Carrillo, Eric Valdez, Israel Espín, José Amozurrutia, Carlos Facio, Álvaro Martínez, Israel Carrión, Fernando Venado, Vectores Urbanos

ローカル・アーキテクト:Hans Kabsch

構造:LABG – Eric Valdez, GIEE | 設備:Enrique Zenón

ランドスケープ:Taller de Paisaje Hugo Sánchez

施工:CRUM – Martín García

コンサルタント:BAMPUTERRA– Verónica e Luisa Correa, Carlos Hano, Pedro Lechuga – Cuervo loco, TEMAS MX, Hans Kabsch(修復計画)

建築主:SEDATU, Municipio de Tapachula

規模:敷地面積 27,000 m² / 延床面積 7,200 m²

スケジュール:設計 2020年3月–8月 / 施工 2020年9月–21年4月

所在地:Calle Decimosecta Pte. 2, Los Naranjos,

Tapachula de Córdova y Ordoñez, Chiapas, Mexico



配置図



立面図



断面図

無断での本誌の一部、または全体の複写・複製・転載等を禁じます。
©2022 Arnoldo Mondadori Editore
©2022 Architects Studio Japan

メキシコ：ホフトラ計画

再建としての建築：共同体、アイデンティティ、創造

フランチェスカ・セッラザネッティ

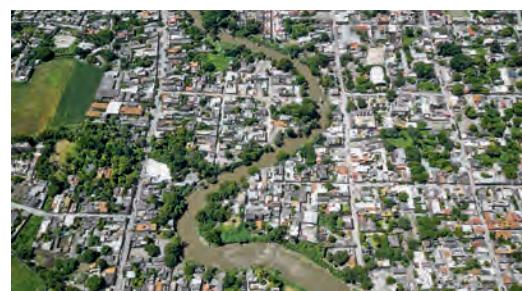
参照 | 本誌 pp.40-55

メキシコの脆弱さは、なおざりにされた社会構造にも、国土の脆弱さにも関係している。自然条件と人間の責任は、壊れやすいと同時に、歴史の再検証と未来への展望を見据えたプロジェクトへの潜在力に充ちたこの国の、コインの両面なのである。

こうした二重性の例は、2017年9月にメキシコを襲った地震が引き起こした悲劇的な破壊によって現れた。この地震はまた、過去の建築物の保全と新しい都市のケアにおける怠慢にも光を当てたと思われる。他方で、メキシコでは公共空間のプロジェクトは常に二の次に回ってきたよう、新しく質の高い建築の大半は個人・民間のインシアチブにより生まれている。

そこで、関心を持って注目すべきものが、地震後の再建のためにホフトラ市で実施された実験である。同地では住宅のほかに、過去数年をかけて真の意味でのインフラストラクチャーと、緊急事態に起因する必要性にも新たに浸透したクオリティにも配慮した一連の公共空間が再建された。

モレロス州に位置するホフトラ市は、地震の被害が最も深刻だった場所のひとつである。2,500棟以上の住宅が、ほぼすべての公共インフラストラクチャー（学校、広場、教会）とともに倒壊した。住宅の壊滅的な喪失に加えて、すでに脆弱だった共同体の空間も粉々に碎かれたのである。再生と再建の計画が差し迫るなか、インフォナビット（労働者住宅基金）とオガレス財団があるプログラムを始動させた。それは政府による住宅再建とは別に、不可欠なインフラストラクチャーの再構築と公共空間に配慮した建設事業の実現を通して、集合的アイデンティティにも取り組むも



被災後のホフトラ市

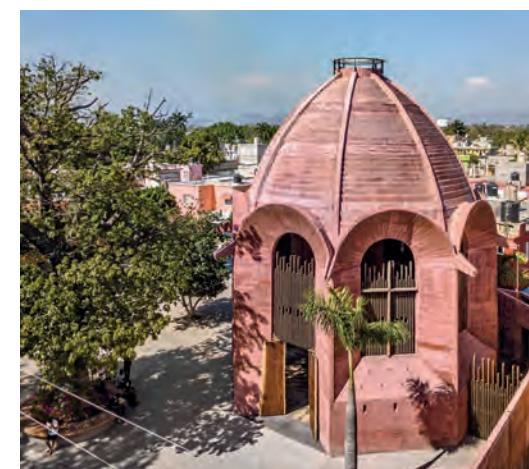
のである。そこから、メキシコ国内で最も活動的な建築家の何人かが実現した、質の高い空間体系が生まれた。

地震が引き起こした被害と建設工事の有無を言わせない必要性により、自治体の規模でも州の規模でも一連の問題群が明るみに出ると、計画の進展は長期的視野に立った解決策の発見を試みる機会となった。地元共同体の参画は、州の戦略計画として、メキシコシティのMMX建築設計事務所が主導したこのプロセスの中心をなした。体系的な調査研究により、プロジェクト策定の鍵となるモビリティ、屋外空間、高密度といった要素に基づいて新たな戦略が強調された。

再開発計画の中核はMMXが実現した中央庭園である。地震を唯一生き残った樹木の存在を出発点として、MMXはレジリエンスの象徴としての緑地を組み込んだ屋外空間を設計した。公共空間の役割に注目することにより、屋内空間と屋外空間の連続性の中で、以前は混乱してアイデンティティを欠いていた空間に新たな秩序が与えられた。新たに設けられた一連のポルティコにより、移動、休憩、出会い、日陰の場所が生まれ、そこは識別しやすいアーチ形で特徴づけられた。まさにこのデザイン要素が、ホフトラ市で実現されたすべてのプロジェクトをひとつにまとめているように思われる。地方の伝統建築を再解釈することにより、アーチが開む空間はさまざまな機能プログラムを迎え入れる。

それは、アルベルト・カラチが主宰するタイエールTAXが設計したエミリアノ・ザバタ小学校のファサードと中庭でも実行されている。ホフトラ市中心部の地震で深刻に破壊された学校を建て替えるためのプロジェクトは、最終的に数キロ離れたエル・イゲロンという町で実現された。ここでは一連のアーチが各教室のスパンを連結し、コンクリート造の单一ヴォリュームを形成する。アーチを使う選択は計画当初においてその構造的な機能ゆえに決定されていたが、アーチの存在は、ホフトラ全域でほとんど消滅したコロニアル建築も呼び覚ます。アーチは、倒壊した古い礼拝堂を建て替えるため同じくTAXが設計したサンタ・クルス礼拝堂のプロジェクトにも連続する要素である。この礼拝堂も打ち放しコンクリートで、クーポラは8本の三角形の柱で支えられ、8つの半円アーチを生み出している。

実現されたプロジェクトのうち、最新作はデレカンプ・シェレイヒによるセニョール・デ・トゥーラ聖域で、コロンビアの建築設計事務所AGENDaが協働した。設計案は、現場



アルベルト・カラチ：サンタ・クルス礼拝堂



同：エミリアノ・ザバタ小学校

打ちした4つの巨大なコンクリート・アーチで支えた、組積造の大きなヴォールト屋根に凝縮されている。ここでもアーチがプロジェクト全体の造形を決定している。巨大な構造アーチが各ファサードを印づけ、屋根で保護された神殿遺跡エリアの四隅に建つ支柱により、支点が明示される。

平面図は十字形バシリカ建築の古典的タイポロジーに由来するが、同時に、周囲の空間との連続性を中断せずに親密で瞑想的な次元を設定する、自由な立面により再定義している。こうして聖なる場所は屋外のこの上なく公共的な空間として捉えられ、広場を呼び起こす同時に、連続性の要素としての庭と自然を喚起する。

大地震から4年以上が経ち、建築はもう一度、集合的アイデンティティを再構築するための手段と機会になったのである。

無断での本誌の一部、または全体の複写・複製・転載等を禁じます。

©2022 Arnoldo Mondadori Editore

©2022 Architects Studio Japan

「中央庭園」Jojutla, Morelos, Mexico

設計=エストゥディオMMX

参照 | 本誌pp.46-48

作品:中央庭園

設計:エストゥディオMMX

協働者: Laura Alonso, Pablo Goldin, Daniel González,

Diego González, Zabdiel Ramos

施工:Retrat SA

構造:BVG

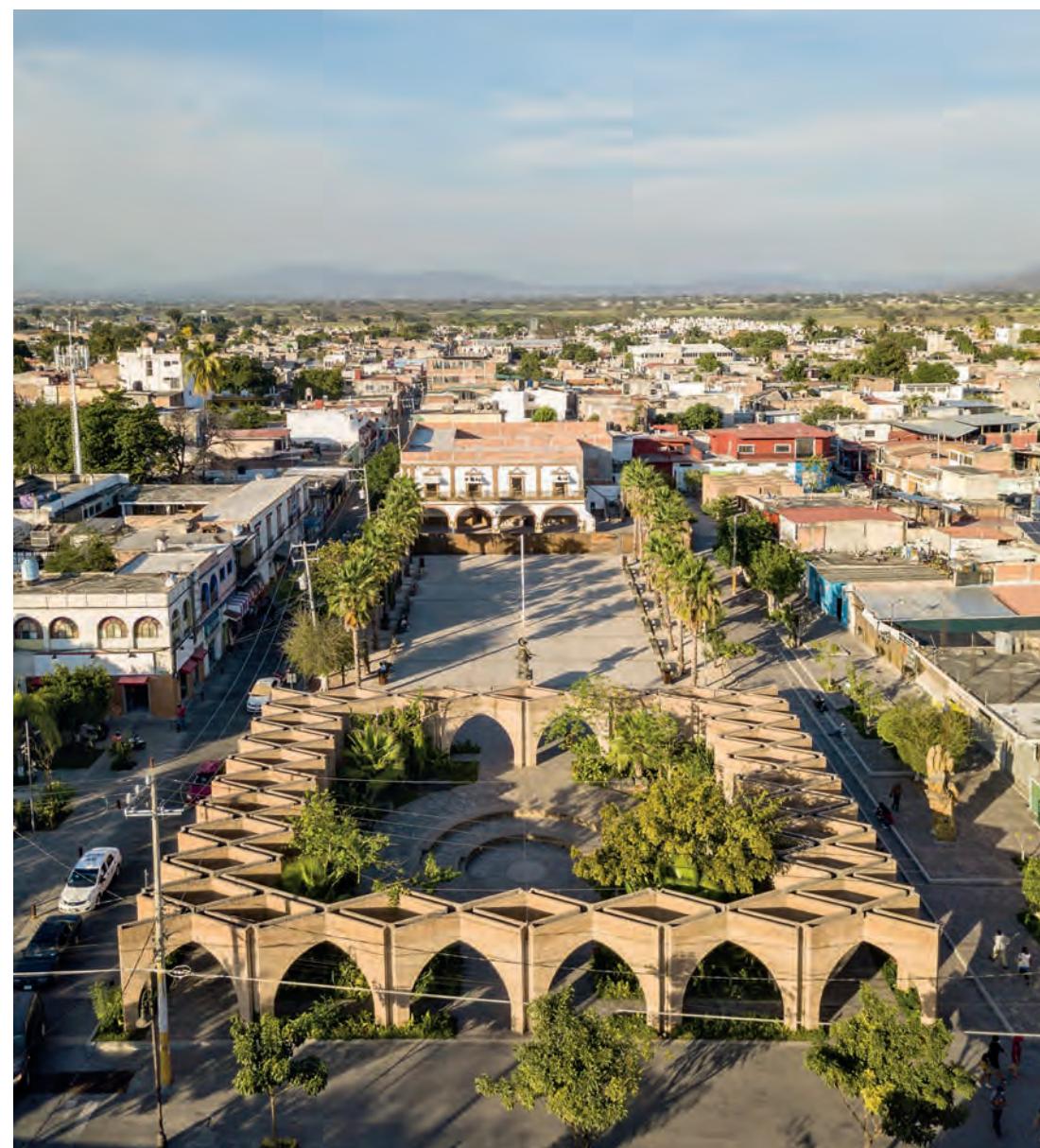
ランドスケープ: PAAR

建築主: CIDS Infonavit, Fundación Hogares

規模: 延床面積 9,144m²

スケジュール: 竣工 2019年

所在地: Jojutla, Morelos, Mexico



配置図



平面図



ボルティコに囲まれた広場



ボルティコ

無断での本誌の一部、または全体の複写・複製・転載等を禁じます。

©2022 Arnoldo Mondadori Editore

©2022 Architects Studio Japan